

団体名	特定非営利活動法人 多言語センターFACIL
活動テーマ	災害医療通訳育成とわかりやすい災害情報発信への意識向上



住民が多様化し、海外からの訪日者も増加する昨今、生活のなかで多言語での対応が必要な場面が増えています。ときには言葉がわかるかどうか、生命の安全にかかわることさえあります。その究極の場面のひとつが災害医療の現場です。阪神・淡路大震災以後、さまざまな災害がおこるたびに、日本語の理解が難しい外国人にとって心身の安全をまもる情報を得るのがいかに困難か明らかになっています。まして医療となれば専門的な内容にも対応できる通訳者の協力が必須ですが人材はごく限られています。日本語が母語であっても他人ごとではありません。医療・救護活動を受ける側も通訳を必要とするかもしれません。東日本大震災では海外医師団による救援活動の際に言葉が通じず治療できない問題がありました。災害医療の現場での多言語対応の基盤作りは社会の急務といえます。当団体では防災・医療分野をはじめとするコミュニティ通訳・翻訳でのこれまでの経験を踏まえて、主に通訳者および通訳者を目指している方々を対象として災害医療通訳の概要や技術の一端にふれる研修を開催し、その成果をまとめ、災害医療通訳のテキストを作成しました。平時・災害時を問わず、多言語・多文化の背景を持つ人が安心して、必要な医療を受けられるために、通訳者やボランティアが技能をいかして社会とつながる機会を広げ、勇気をもって貴重なマンパワーとして活躍できる第一歩となるようにと本研修は78名（うち、神戸会場50名[英語13、中国語6、スペイン語6、その他25]、大阪・名古屋・東京遠隔会場28名[英語6、中国語7、スペイン4、ポルトガル6、ベトナム2、その他3]）の参加者を迎え、大きな反響を得ることができました。これをきっかけに今後、災害時でもことばの壁を越えて、誰もが安心・安全に医療を受けられる基盤作りが進むよう、活動を続けていきたいと思います。